

試験研究成果普及情報

部門	野菜	対象	普及
課題名：抑制メロンの果実肥大と糖度を向上させる遊びづるの利用			
<p>[要約] 抑制栽培では、下位節の子づる 1 本を10節摘心し、遊びづるとして残すことにより、茎葉重及び根重が増し、収穫期の草勢が保たれ、果実の肥大及びネットの発生が良好で、糖度の高い果実が生産できる。</p>			
キーワード（専門区分） 栽培		（研究対象）野菜類 - メロン	
（フリーワード） メロン		遊びづる 果実肥大 糖度	
<p>実施機関名 （主査）農業総合研究センター北総園芸研究所東総野菜研究室 （協力機関） （実施期間） 2001年度～2003年度</p>			

[目的及び背景]

抑制メロン栽培では温室メロン栽培に準じた、1株親づる1本整枝1果どりとし、親づる以外の茎葉を除去する整枝が一般的である。しかし、地床栽培の抑制メロンでは土壌病害や根傷みなどで草勢の維持が困難な場合があり、果実肥大が不十分であったり、果実の糖度が不足することがある。

そこで、親づるの他に、子づるの茎葉を利用することにより大きく、糖度の高い果実を安定して生産するための整枝法を検討する。

[成果内容]

- 1．抑制メロン栽培では、親づる第2～5節に着生する子づるのいずれか1本を遊びづる（10節摘心後に脇芽を全摘除）として残すことにより、茎葉重が増すだけでなく根重が増し、果実重量が大きくなる（表1、表2）。
- 2．遊びづるの着生位置を高くすると、糖度の低い果実の発生割合が高くなる（図1）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．栽植密度は、1,400～1,600本程度と低めに設定し、秀品率の向上を図る。
- 2．交配前の生育が揃わない場合は、一斉着果を優先し、交配前に茎葉を誘引し、着果位置を揃える。

[普及対象地域] 県下全域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表 1 ハウス抑制栽培における遊びづるの有無

試験区 (遊びづる)	草勢	萎れ	茎葉重 (g/株)	根重 (g/株)	果重 (g/果)	胎座部糖度 (Brix)	果肉部糖度 (Brix)
有	4.0	4.0	1,320+500	37.9**	1,990*	14.5ns	12.5ns
無	3.4	3.9	1,380+	32.3	1,870	14.5	12.5

注)・品種「アールスモネ夏系1号」、平成14年8月2日播種、8月20日定植、9月10日交配
 ・遊びづる有区は親づる2節に着生した子づるを地這いとし、10節摘心
 ・草勢は5(強)~1(弱)に、萎れは5(無)~1(激)に株ごとに評価した平均値
 ・11月7日調査
 ・数値右の**、*は、それぞれ1%、5%で分散分析による有意差があることを、nsは、有意差がないことを示す

表 2 ハウス抑制栽培における遊びづるの有無、位置

試験区 (遊びづる)	草丈 (cm)	展開葉数 (枚)	根重 (g/株)	果重 (g/果)	胎座部糖度 (Brix)	果肉部糖度 (Brix)
低位置	147	22.2	29.8 a	1,940 a	14.5	14.7
高位置	147	22.3	30.3 a	1,840 ab	14.0	14.4
無	150	22.1	23.9 b	1,740 b	14.6	14.3

注)・品種「アールスモネ夏系1号」、平成13年7月26日播種、8月15日定植、9月6日交配
 ・遊びづる低区は親づる5節に着生した子づるを地這いとし、10節摘心、遊びづる高区は、親づる11節の子づる1~2節に着生した孫づるを地這いとし、10節摘心
 ・草丈及び展開葉数は9月3日、他は11月6日調査
 ・右肩の異なるアルファベットはRyanの多重比較による有意差(5%)があることを示す

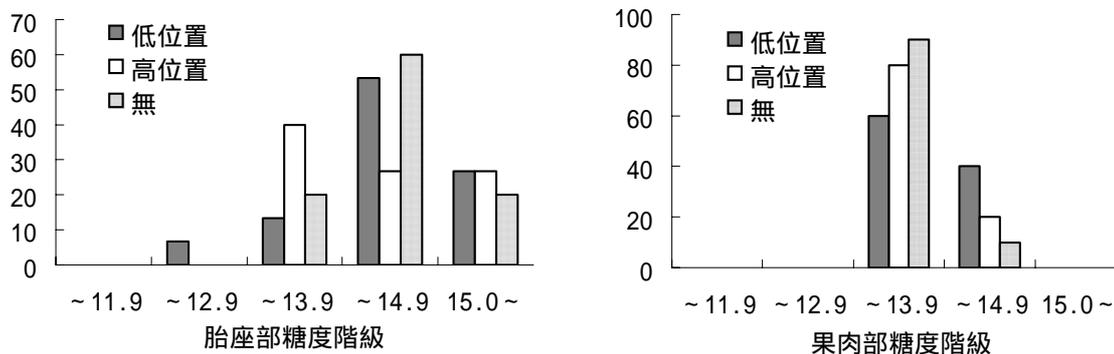


図 1 ハウス抑制栽培における遊びづるの有無、位置と果実糖度の分布

[発表及び関連文献]

平成13、14年度野菜試験成績概要集(公立)関東東海()野菜茶業研究所編